

# 馬の骨とともに40年

## A Personal Tale of a Dual Career Couple

Machi F. DILWORTH

1967年UCLAに留学すると決まったとき母の友人達は“年頃の娘をアメリカなんかに出したらどこの馬の骨ともわからないのを拾ってくる可能性大あり”と大反対でした。大学を卒業した女性は就職か結婚のどちらかを選択するのが常識でしたから、大学院、それもアメリカの大学院に進んで科学の分野でPh.D.まで目指す仲間は稀でした。私自身はPh.D.を得たら日本に戻って研究を続けるつもりでした。

留学して4年後1971年に植物生化学・生理学でUCLAからPh.D.を授与されました。母の友人達の危惧した通り、博士論文を提出した翌日3年前に知り合ったアメリカ人と結婚しました。私の拾った馬の骨(Gregと申します)はUCLAで修士を取得したあと、ミシガン州立大学の博士課程に在籍中、専門はPlant and Microbial Biology。Dual Career Coupleの誕生でした。私達は両方に理想の職が同じ土地で見つかる可能性はまずないという前提に立ち、先に望みのポジションを得たほうにもう一人はついていくという約束で、ミシガン、ジョージア、ワシントンと渡り歩いたのは私がGregに付いていき、ワシントンにずっと居続けたのは私の仕事を優先したためです。

アメリカでは教授のグラントに大抵ポストドックと大学院生のサラリーが含まれているので、ポストドックの口は比較的簡単に見つかります。私もそのお陰でミシガン、続いてジョージアでもワシントンでも、ポストドックあるいは同等のポジションを直ぐに得ることができました。パーマネントポジションとなると話は別で、特に1970年代のアメリカは生物学者は就職難に面していて、比較的就職口の可能性の多いワシントンでも私の場合は8カ月、Gregは3年の空白がありました。

ワシントンに移ってから、Ph.D.をもった科学者に大学教授や研究者以外の職業があることを知り、仕事探しの枠を広げた結果、米国科学財団(NSF)でProgram Officerとして採用されました。仕事は競争的研究資

金を管理することです。研究には従事しませんが、科学の推進に貢献できる、日本には同類のない職業です。NSF以外にも、国の競争的研究資金を扱う機関では多くのPh.D.レベルの専門家が活躍しており、私もアメリカ農林省の競争的研究資金の機関にも9年勤め、NSFでの21年と合わせて30年この仕事に従事しています。偶然出あったCareerですが充実した、やり甲斐のある仕事です。

ミシガンで長男、ジョージアで長女が生まれました。私は子供が生まれても仕事を続けることについては全く迷いませんでした。好きな科学を続けたかったのと、Dual Career Coupleとして片方に空白ができた場合に備えておく必要がありました。私達の世代のアメリカの夫婦は、家事はほとんど妻が負担しています。我が家でも家事いっさいは私の役目でした。ただし子育てに関しては、親としての資格はGregのほうが私より高いのは公の事実です。Gregは仕事優先の傾向のある私に厳しく、子供達の小さい頃は私が土日に出勤などしたら村八分にされたものです。でも子供たちが巣立った後は、毎晩遅く帰宅しても9カ月(1996~1997)日本でSabbaticalを過ごす機会に恵まれたときも快く応援してくれました。こうして何とか仕事と私事の両立ができた要因としては、有意義な仕事、働きやすい職場環境、良いメンター、職場や保育園に15分で車でとんでいける距離に自宅のもてる住宅事情、私のCareerの発展とアメリカの女性の共同参画推進政策の発展とが時期的に対応していて、その恩恵にあずかったことなどがあると思います。

早いもので、結婚してから39年6カ月、孫も3人になりました。Gregは7年前にさっさとRetireして、Machiが85歳まで働く余裕のある老後が過ごせるなどと勝手なことを言いながら、私の分まで孫の世話を楽しんでいます。私は85歳はともかく、もうしばらく仕事を続けたいと思っています。



Machi F. DILWORTH

National Science Foundation  
Arlington, Virginia, USA  
Deputy Assistant Director for Mathematical and  
Physical Sciences  
Ph. D.

Plant Science  
E-mail: mdilwort@nsf.gov